

(別紙1)

総括研究報告書

課題番号	2023C-9	
研究開発課題名	救急外来における専門診療科との遠隔画像共有の有用性	
分類※	<input type="checkbox"/> ① <input checked="" type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> ④ <input type="checkbox"/> ⑤ <input type="checkbox"/> ⑥ <input type="checkbox"/> ⑦	
区分	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> E <input type="checkbox"/> S	
主任研究者	所属	救急診療部
	役職	医師
	氏名	多賀谷 貴史
実施期間	2023年 4月 1日 ～ 2024年 3月 31日	

※分類は下記①～⑦より選択

- ① 日本の成育分野の疾患の研究の基盤となる研究
- ② 診断、治療及び予防法の開発に関する研究
- ③ 発症機序や病態の解明等を行う研究
- ④ 診断や治療のための基準の開発等に関する研究
- ⑤ 患児・者のQOL向上に結びつく研究
- ⑥ 研究的視点や技術をもつ医療従事者を育てるための研究
(プロトコル作成のフェージビリティ研究)
- ⑦ 政策提言に結びつく研究

成果の概要

分担研究（研究開発分担：儀間政文、分担研究開発課題名：重篤小児の施設間搬送における遠隔画像共有の有用性に関する検討）として、高規格ドクターカー内に遠隔映像配信機器であるアルム社の『Join Live View』を設置、生体情報モニターとドクターカー内映像を院内へ送信し、遠隔モニタリングに関する調査を行なった。倫理審査委員会（受付番号 2023-045）の許可も得た上で調査を行い、遠隔モニタリングを行なった8例に関して、情報共有のために要する時間は短縮し、搬送担当医師のメンタルワークロード（主観的メンタルワークロードの評価手法であるNASA-Task load indexを用い評価）の軽減が得られた。この結果に関しては、第51回日本集中治療医学会学術集会にて発表を行なった。一方で、コロナ禍に入って以降続く、搬送患者数の減少のため、診断、治療、患者転帰に対する影響に関しては、検討は十分でなく、引き続き症例を蓄積し、検討をすすめる必要があると考えている。このため、2024年度成育医療研究開発費による新規課題（2024C-27）『重篤小児患者の施設間搬送における遠隔モニタリングの有用性に関する検討』として、症例の蓄積、検討を継続する。

また、分担研究（研究開発分担：江口佳孝 専門診療科医師の勤務時間に与える影響に関する調査・解析）に関しては、救急外来とオンコールの整形外科医師の情報共有のため、スマートフォンアプリ『Join』用い、レントゲン写真の遠隔画像共有を行った。後方視的検討では、60

%以上の症例で整形外科医師の来院を要せず、処置が可能であり、有害事象も認めなかった。スマートフォンによる整形外科医との画像情報の共有により、適切な治療方針の決定が可能と思われる。また、夜間・休日の整形外科医の負担を減らすとともに、医療費の削減につながる可能性が示唆された。